

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和2年6月25日	部名	環境科学部	
調査研究課題		光化学オキシダントにおける長期的な変動の解析			
調査	主任研究者	日岡一也		研究区分 (小分類)	<input checked="" type="checkbox"/> 県単研究 <input type="checkbox"/> 公募研究 <input type="checkbox"/> 共同研究 <input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 基礎研究
	その他の研究者	十川隆博			
研究 体制	調査研究期間	令和3年度～令和5年度(3年間)			
	調査研究費	予算項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		国費	千円	千円	千円
		県費	200千円	200千円	200千円
その他	千円	千円	千円		
	合計	200千円	200千円	200千円	
調査研究の目的		<p>宮崎県内において、令和元年5月23日から25日にかけて、注意報基準を超過する光化学オキシダントが観測され、県は注意報を発令した。宮崎県において光化学オキシダント注意報発令は観測を始めた昭和49年度以降初めてのことで、目や喉の痛みなどの症状が出る恐れがあることから、学校の部活動が中止になるなどの影響があった。本県では、30年以上の光化学オキシダントの観測データを蓄積していることから、長期的な変動等を解析することが可能である。そこで、本研究は、蓄積してきた光化学オキシダントの観測データを解析し、原因物質である窒素酸化物及び揮発性有機化合物との相関などを調査することで、長期的な変動を明らかにすることを目的とする。また、高濃度の光化学オキシダントが観測された原因について、气象台データや後方流跡線などを調査するとともに、越境汚染の可能性を踏まえ、世界の経済活動の状況などのデータを併せて解析することで考察を行う。</p>			
調査 研究 内容	研究の実施計画	大気汚染常時監視測定局で測定している光化学オキシダント及び窒素酸化物等のデータを整理し、气象台データや後方流跡線などを調査することで、長期的な変動等について解析を行う。			
	技術手法	1 蓄積データの経年変化の解析 2 原因物質との相関解析 3 天気図、後方流跡線の調査 4 経済活動などの社会的な背景との相関解析			
	年次計画	令和3年度 蓄積データの経年変化の解析 令和4年度 原因物質との相関解析、天気図及び後方流跡線の調査 令和5年度 経済活動などの社会的な背景との相関解析			
調査研究の効果等 (行政効果・県民ニーズへの波及効果等)		光化学オキシダントに関する長期的な変動を明らかにし、高濃度の要因等について考察を行うことで、大気環境保全対策の基礎資料を充実させる。また、調査結果をホームページ等で広く公表することで、県民の環境保全への関心を高めることができる。			
備考					